

「主題図作成のためのGIS実習会」開催される

(社)日本写真測量学会関西支部

1. 開催経緯

関西支部は、産学官を含めた学会活動の活発化を目指して昭和55年7月に設立(大阪科学技術センター)され、年一回の講演会を継続的に開催するとともに、昭和55年10月に関西地区初の学術講演会(奈良文化財研究所)、昭和56年9月に解析写真測量研修会(大阪阿倍野)、平成11年6月には関西文化学術研究都市(けいはんな)での先端技術の見学会を開催する等、設立当初からさまざまな活動を続けて参りました。本年度は、幅広い分野でGISの利用・普及が望まれていることを受け、建設省国土地理院近畿地方測量部と近畿測量専門学校のご後援をいただき、平成12年8月21日、22日の二日間にわたって「主題図作成のためのGIS実習会」を開催いたしましたので、その詳細を報告いたします。

2. 実習の内容

GISはハードウェアとソフトウェアの整備、データベースの作成・整備、組織体制の確立および人材育成といった環境が整うことで初めて稼動しますが、現実にはGISに関する実地的な教育・研修の機会が少ない傾向にあります。そこで関西支部では、今回のGIS実習会の目的を“各種空間データを基に、GISソフトウェアを用いて幾つかの主題図作成を経験することにより、今後のGIS活用の基礎技術を習得すること”としました。以下に実習会のスケジュールを示します。

第1日(平成12年8月21日)

午前：開会挨拶・ガイダンス

GIS・使用ソフトの概説(デモンストレーション)、数値データの変換・取り込み

午後：基本操作(レイヤーごとの表示、拡大・縮小、凡例の編集・表示)、検索(属性操作、条件検索)空間解析(バッファの作成)

第2日(平成12年8月22日)

午前：空間解析(オーバーレイ、空間結合)、デー

タの集計、グラフの作成

午後：レイアウト作成、データの作成・更新
総括・閉会挨拶

それぞれの項目ごとに説明と実習を繰り返すようにし、参加者自らがGISのソフトウェアを動かすことに多くの時間を充てられるよう配慮しました。

また、項目ごとのテーマについても、具体的なデータを利用することで一つ一つの操作の目的が明確になるよう考慮しました。例えば、「空間解析」では
①防火施設から50m以上離れている地域を指定
②次に、木造家屋があり、かつ、道路幅員4m以下の範囲を抽出・表示

といった内容を実施し、都市防災の問題を議論する上で貴重な資料が作成されることの理解を促します。また、「データの作成・更新」では、

①既存の地図データに航空写真を重ね合わせて表示
②画面上で新たに建設された建物データを取得し、階層、所有者などの属性を与える

などの実習を行いました。この場合は、都市施設に関する情報の更新作業を実習に盛り込んだことになります。

この他にも福祉、都市計画などについて数テーマを準備しましたので、参加者にGIS運用の具体例を示すことにもなったのではないかと考えております。



写真1 課題に取り組む参加者

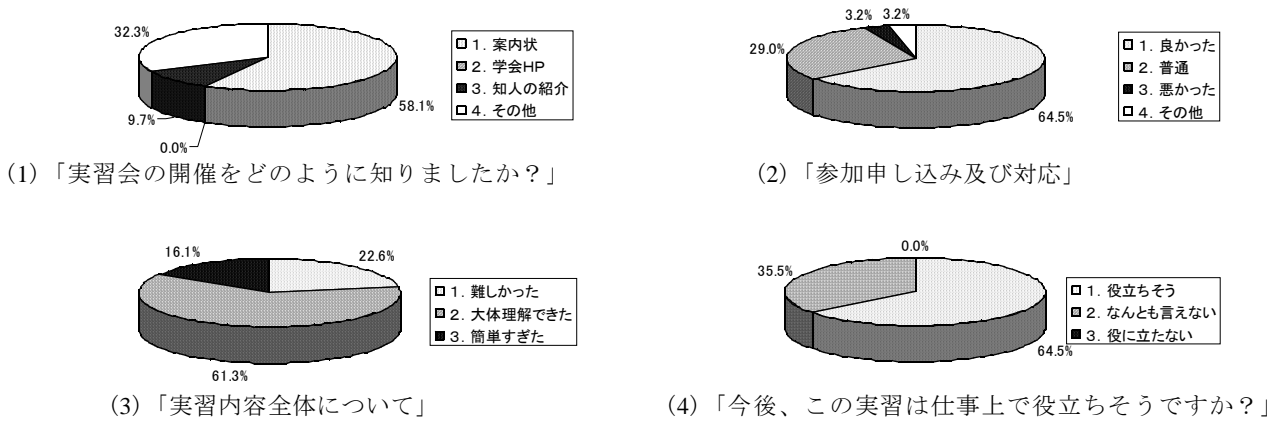


図1 アンケート集計結果の抜粋

3. 参加者募集対象と参加人数

今回の実習会では、GISの普及に行政の参加が不可欠であろうとの認識から、関西支部学会員に加えて行政に関わる方々の参加を目標として掲げ、支部役員が手分けして地方公共団体を中心に声をかけることになりました。実習会の会場として近畿測量専門学校の大教室をお借りいたしました。当日には会場定員をほぼ埋め尽くす35名の参加者がいました。

4. 実習会の実施（アンケート集計結果）

関西支部としてこのような実習会を開催することについてはほとんど経験がなく、事務的な手続き、内容検討、広報活動等々、初めてのことが多かった様です。そこで、今回の経験を何らかの形で次回からの活動に反映させようと、参加者を対象にアンケートを実施しました。ここでは、アンケートの集計結果の一部を図1のように紹介します。なお、参加者人数の割合は、産学官で約2:1:1といった結果となりました。

(1) 「実習会の開催をどのように知りましたか？」：支部からの「案内状」が約6割を占めています。「その他」については「支部役員から」や「会社上司から」といったものが目立ちました。今回の実習会については支部ホームページにも掲載し、本部とのリンクも張られていました。「学会HPから」との回答が得られなかったのは支部でのURLの告知が遅れたことに起因すると思われます。今後、支部の広報面でもホームページの役割が大きくなっていくものと考えられます。

(2) 「参加申し込み及び対応」：今回の参加申し込みについては本部のご協力をいただき、ほとんどを電子メールで実施しました。参加申し込みの受理通知なども電子メールで行いましたが、「不便である」といった

意見はほとんど聞かれませんでした。(1)の問題と併せて考えると、支部活動の活性化にネットワークを利用できる土壌は既にできあがっており、アプローチの仕方次第であると言えます。

(3) 「実習内容全体について」：アンケートの回答から約8割の方が理解できていることが伺えます。実習時間が多く充てられていたことを「大変良かった」と感じている参加者も多く、当初の目的はある程度達成されたものと考えています。

(4) 「今後、この実習は仕事上で役立ちそうですか？」：「役に立たない」と回答した人がいなかったのに対して、「なんとも言えない」とした人が35%程度いたことは見逃せない点であろうと思われます。アンケートの回答では「上司の理解を得てほしい」といったものも見られました。学会の「啓蒙・普及」といった大切な役割が問われるところであろうと思われます。

(5) 今後企画してほしいテーマなど：今回の実習会では、「このような実習会を是非もう一度やってほしい」といった声も聞かれる一方で、「もう少し内容を深くした実習会を開いてほしい」との意見も見られました。今後の支部の活動に反映すべき点と考えております。

なお、アンケート集計結果の詳細は支部ホームページに掲載する予定です。

最後になりましたが、(株)パスコ・関西営業本部の松田智子さん、丸尾六祐さん、近藤征博さん、秋間由香さん、(株)ジェクト・大阪計測技術部の林宏子さんには、講師陣としてテーマの設定から参加者の指導まで、強力なサポートをいただきました。また、近畿測量専門学校の荻野純司さんには実習会の運営にご協力いただきました。ここに深謝の意を表します。